



Top

《トップに聞く！》

Interview

北九州の地域経済を支える物流企業

当社は、1922年（大正11年）7月に私の祖父が福岡県若松市（現北九州市若松区）に、石炭を中心とした物流を手掛ける合資会社丸加回漕店を創業したのが始まりです。

そして、58年（昭和33年）に戸畑市（現北九州市戸畑区）に新しく港が整備されたことを機に、戸畑港に進出。いくつかの会社を吸収合併し、新たに戸畑港運輸株式会社として出発致しました。

その後も時代の流れとともに変化し、お客様の物流へのニーズに対応する形で、当社も事業を変化、拡大させて参りました。おかげ様で現在では、港湾荷役・保管・運送を併せた貨物取扱量が年間100万トンを超える、総合的な物流サービスを提供出来る企業へと成長することが出来ました。

地域に密着した物流企業として「地域経済の灯台」となることを目指す

常に「半歩先」の時代を見据えて事業を変化、拡大

石炭産業の斜陽化やオイルショック等、これまで当社を取り巻



戸畑港運輸株式会社
代表取締役社長

日向 祥剛氏

■取引店／福岡銀行 戸畑支店

く経営環境には様々な変化が起きてきましたが、当社は常に時代の「半歩先」を見据えて、変化に対応して参りました。具体的には、創業の祖父の時代には「主な取扱貨物

を石炭から鉄鋼関連物資へ移行」し、そして二代目の父の時代には「地元北九州に加えて、関東・関西も含めた幅広い地域のお客様との取引を拡大」するようになり、そして三代目の私が社長に就任した後は、「荷役・運搬だけでなく、貿易業務や倉庫事業へも注力」して参りました。

今現在の「半歩先」の時代を見据えると、そこには「環境」というキーワードを外すことは出来ないと考えています。そこで当社では、2010年（平成22年）3月に完成した堺川ラック2号倉庫に、従来のフォークリフトと性能は同等



▲ハイブリッドフォークリフトの説明



にも関わらず燃料消費量とCO₂排出量を半減することの出来るハイブリッドフォークリフトを世界で初めて導入する等、環境に配慮した取り組みを進めております。

丁寧な品質管理で 顧客の信頼を得る

当社が幅広いお客様とお取引頂けているのは、お客様のニーズを満たすことが出来る丁寧な品質管理に注力してきたからではないかと考えています。そして、その品質管理に欠かせないのが「自社倉庫」と「取扱貨物への徹底的な理解」です。

まず「自社倉庫」ですが、今から十数年ほど前から、時代の流れとともにお客様の貨物に対する品質管理の要求レベルが厳しくなり、多くの貨物で従来の野積での保管ではなく、倉庫での保管が求められるようになってきました。そこで当社は、当時の戸畑地区には倉庫が少なかったこともあり、自社で倉庫を建設して品質管理を徹底することを決意。現在では戸畑地区に多くの倉庫を有するようになり、その数は当地区の物流業者では最大規模ではないかと思えます。自社倉庫の充実化は品質管理だけでな



▲最新の設備が整った堺川ラック2号倉庫

く、当社の当地区での存在感を高めることにも貢献しており、お客様から「戸畑で物流会社を利用するなら戸畑港運輸」と思って頂ける

鹿児島まで、勉強・確認の為に必要であれば国内外、地域を問わず訪問して参りました。そうした取扱貨物に対する徹底した理解を

ようになる等、当社の大きな強みとなっております。

次に「取扱貨物への徹底的な理解」ですが、当社の取り扱いしている貨物には鉄鋼をはじめとした工業製品だけでなく、その原材料等もあります。そこで当社では、実際にお客様の会社や工場を訪問し、当社が取り扱う貨物がどのような製造されているのかを勉強します。そして更にその貨物の納入先にも訪問し、納入した原材料等の貨物がどのように使用されているのかまでも確認しています。これまで当社は海外ではヨーロッパ、アメリカ、アジア、そして国内では北海道、東北から

基に、お客様のニーズを満たすことの出来る丁寧な品質管理の実現を目指しています。

私は「蓄積は財産」であり、こうした地道な取り組みの積み重ねこそがお客様との信頼関係構築の源泉になると考えています。実際、当社と30年、40年もの間継続的に取引頂いているお客様が多くいらっしゃいます。またお客様からの口コミによって、当社と新たにお取引頂くことになったお客様もいらっしゃいます。これも、これまで地道に構築してきた信頼関係の賜物ではないかと思っております。

地道な取り組みを支える 人材育成の強化にも注力

当社の品質管理等に対する地道な取り組みを支えているのは、当社の社員です。その為、社員の能力開発にも注力しています。

先ほどご紹介したとおり、当社はおお客様の会社や工場へ訪問しておりますが、その際には訪問した社員が取扱貨物についてより深く理解出来るよう、視察だけでなく会議等にも参加させて頂いております。そしてその取扱貨物に対する理解は、トラック運転手やフォークリフト等の作業員も含めた全員

で共有するよう、徹底して教育しています。

また、業務に関連した資格の取得を奨励している他、研修会、海外視察等への積極的な参加も促しています。更に、当社では定年退職後の再雇用での年齢制限を撤廃しており、意欲のある者は幾つになっても



▲「灯台」をイメージした本社工舎



▲本社前にて

戸畑港運輸株式会社

戸畑港運輸 北九州

検索

- 創業: 1922年12月
- 設立: 1958年7月
- 所在地: 北九州市戸畑区
- 資本金: 4,800万円
- 従業員: 73名
- 事業内容: 港湾運送業、倉庫業、貨物自動車運送業、鉄道貨物取扱業、不動産賃貸業、船舶代理店業
- 事業拠点: 北九州市戸畑区 (川代本社・堺川作業所・物流センター)

「地域経済の灯台」を目指して

も働けるようにしております。実際、当社には70歳でも現場で働いている社員もいます。

今後、人口減少・少子高齢化の時代を迎え、事業者数の減少も予測される等、当社を取り巻く環境は今後も変化し続けると考えています。そうした中でも、お客様に必要とされる企業としてあり続ける為、当社では、これまで取り組んできた丁寧な品質管理に加えて、戸畑地区での存在感を更に高める為に



▲左から谷頭取、日向社長、日向取締役、村本支店長

◎インタビューを終えて

本日は、数多くの倉庫にて工業用の原材料をはじめとした多種多様な貨物を取り扱ってられる様子を拝見し、御社が地域経済の要としてその発展を支えてられることを実感致しました。これも、創業以来常に時代の「半歩先」を見据えながら、顧客ニーズの変化に柔軟に対応してこられた賜物ではないでしょうか。

環境に優しい「ハイブリッドフォークリフト」を世界で初めて導入される等、現在も「半歩先」を見据えた取り組みに注力してられる御社ならば、今後も戸畑、そして北九州に無くてはならない存在として、ご活躍し続けられることを確信致しております。



福岡銀行
取締役頭取 谷 正明

ある程度の規模が必要だと考え、倉庫の拡充を図っています。今年4月末には、洞海湾の対岸である若松に新たな倉庫が完成予定です。

当社は若松で生まれて戸畑で育った、工業・環境都市北九州を支える物流企業です。今後も地域経

済・社会に光を放ち、その発展を支える「地域経済の灯台」となることを目標に掲げ、常に時代の「半歩先」を見据えた新しい物流サービスの提供を通して、お客様そして社会のご期待に応えられるよう、努力を続けて参ります。



Top

《トップに聞く！》

Interview

**ビジネスチャンスを求め、
米の直接取引に参入**

私が自由な米の取引に大きな
ビジネスチャンスを感じるようにな
ったのは、給食関連企業に勤めて
いた頃に購買担当者として米の直
接買付に関わった経験がきっかけ
です。

その後、米穀の集荷販売事業を
始める為に独立を決意。熊本県宇
土市で1996年（平成8年）8
月に有限会社丸福商事を設立し
ました。創業当初は、まさにゼロか
らの船出でしたが、95年（平成7
年）に食糧管理法廃止と新しい食
糧法が制定され、いわゆる米の自
由化が進みだしたこともあって、こ
の追い風も受けつつ、精力的に営業
を重ねたことで、初年度から利益
を確保する等、まずまずのスター
トを切ることが出来ました。

98年（平成10年）には、現在本社

お米の美味しさにこだわり、 安心・安全・安定供給を追求する

がある宇土市住吉町に精米工場を
新設。食糧庁指定表示認証工場に
も認定されたことで市販用米の提
供も可能となり、更に翌年には、米



株式会社丸福商事
代表取締役

福島 純一氏

■取引店／熊本ファミリー銀行 宇土支店

当社内に資格を有する検査員が
常駐する「自社検査機関」を立ち
上げるとともに、現在は、米の産地
情報等の作成・保存を義務付ける
「米トレーサビリティ法」にも対応
した万全の品質管理体制を構築
しております。

**生産者様からも
お得意先様からも、
信頼を得ることが基本**

現在当社は「米穀の集荷、精米、
卸・小売」を主な事業としていま
す。地元の生産農家様や農業団体
等から調達した県産米を、主に外
食関連企業や食品加工会社等に
「業務用米」として納入させて頂
いているほか、スーパーや量販店向
けに「市販用米」としても卸売り
しております。

米は日本の食文化の基本であ
り、主食として欠かせない食材で
す。だからこそ、安心・安全を追求
し、年間を通して一定の品質を保
ちながら、安定的に供給していくこ
とが何より大事です。特に業務用
米では、価格競争もさることなが
ら、契約に基づき所定の品質の米
を確実にお届けすることが最も重
視されます。その為、予め必要とさ
れる量の米を確保した上で営業を

穀卸売業の認可取得により地元
県産ブランド米の取り扱いも始め
ています。

そして、08年（平成20年）には、



▲精米工場前景



▲当社出荷商品



▲精米工場内部の様子

行うということも重要です。また、当社は、「定番品と特売品の組み合わせ」といった販売方法のアドバイスをを行う営業にも注力しており、こうした取り組みも信頼を頂く上で大事な要素となっております。

「ライスセンター」と「自社検査機関」が重要な役割

03年(平成15年)には、念願の「ライスセンター」を立ち上げました。これは、生産者様が収穫した^{もみ}粗付き米を乾燥・^{もみ}粗攪り(粗穀を取り除き玄米にすること)処理する為の施設です。

本来、生産者様のライスセンター利用と当社の仕入取引とは、別物です。ただ生産者様にとっては、ここで粗攪り処理が済んだ米をそのまま当社の倉庫に納入出来るのであれば、それは、手間もかからず大変便利な仕組みとなります。つまり、ライスセンターを設置したことにより、多くの生産者様から安定して調達が出来るようになった訳です。また、こうして納入された

米は、「自社検査機関」において銘柄や等級が判定されることで、当社の買取のプロセスもスピーディーに行え、ご好評を頂いています。

このようなメリットが評価され、生産者様との直接取引も拡大した結果、流通過程における中間コストの削減に大きく寄与しています。こうした取り組みにより、価格競争力を持つてお得意先様に商品をご提供出来ることも当社の強みとなっております。

「^{います}今攪り米」で季節を問わず新米の美味しさを

当社が自信を持つてご提供している商品に「今攪り米」があります。



▲米穀の精米と流通に関する説明

米は、収穫直後の秋の時期が一番美味しいのは言うまでもありませんが、時間が経つにつれてその味や香りは劣化し、春先以降になると品種・保存法等によつて風味に大きな差が出てしまいます。現在、一般的に流通している米は、粗攪りして玄米の状態で倉庫に保管されるのが通常ですが、これでは、保存期間が長引くにつれて味も香りも低下していきます。

そこで当社では、^{もみ}粗のままの状態、乾燥等により水分量を調節した上で、米を低温貯蔵しておき、受注の都度「粗攪り・農産物検査・精米」の工程を経て出荷します。これが「今攪り米」というもので、



▲低温倉庫内部の様子

株式会社 丸福商事

- 創 業: 1996年8月
- 設 立: 同上
- 所 在 地: 熊本県宇土市
- 資 本 金: 1,000万円
- 従 業 員: 12名
- 事業内容: 米穀の集荷、精米、卸小売
- 事業拠点: 熊本県宇土市(本社)

将来は「米そのものの生産」にも関わりたい

長期的な展望としては、他社との差別化を図る為にも、米ビジネスの源流である「米の生産」に直接関わっていくことも考えています。現在、米の余剰等が指摘されて

主に市販向けにご提供しております。新米と美味しさがほとんど変わらないと消費者の方々からの評価も高く、今後もこの「今摺り米」の良さを更に広め、販売を増やしていきたいと思っています。



▲左から林頭取、福島取締役営業部長、福島代表取締役、福島取締役、吉野支店長

いますが、長い目で見れば、海外新興国の需要増加等により、米をはじめとした食糧への需給はむしろ逼迫するのではないのでしょうか。こうしたことから、日本国内で米作りに関わっていくことは重要だと考えます。

してきた「安心・安全の追求」は、これからも変わりません。今後も、地域に密着し、生産者様の顔が見える生産履歴(トレーサビリティ)の確保に努め、安定供給と品質保持、コストダウンを通して、生産者様やお得意先様の信頼を深めるよう、精一杯努力して参ります。

◎インタビューを終えて



熊本ファミリー銀行
取締役頭取 林 謙治

御社は、地元熊本県産の美味しいお米を多くの方に安心して食べて頂ける様、ライスセンターや自社検査機関を立ち上げられただけでなく、「今摺り米」も販売される等、様々な取り組みを意欲的に行っておられます。こうした御社のご努力は、生産者やお得意先の方々からの厚い信頼へと繋がっており、今日の御社の礎となっているのではないでしょうか。

お米は私達日本人にとって重要な主食です。その安定供給という大切な役割を担っておられる御社が、これからも益々ご発展されることを期待致します。



Top

《トップに聞く!》

Interview

電動機修理からスタート、
今では制御装置から
艀装品まで手掛ける

当社は、1970年(昭和45年)、現会長である私の父が、モーター等の電動機修理を行う為、長崎県佐世保市上原町に有限会社日興電機を設立したのが始まりです。72年(昭和47年)には、株式会社日興電機製作所へと改組。設立して暫くは、修理の依頼を数多く頂いていたのですが、時代の流れとともに、当社が取り扱う電動機等の電気機器類は、修理して使い続けるものから買い替えるものへと変化していき、修理のニーズも減っていました。その為、新たな分野での取り組みを模索する中、ある造船所様から船舶等を使用する電装品の製造を請け負ったことがきっかけとなり、船舶関係の電気機器類の受注が増え

お客様との信頼関係が 何よりの財産

て参りました。その後、当社の誠意ある対応や確かな技術力に對して信頼を頂けたことで、船舶に備え付けるタンクや螺旋階段等の

艀装品^{せきそうひん}といった電気関係以外の製品も発注頂けるようになる等、取り扱い品目の幅が広がっていったのです。



株式会社日興電機製作所
代表取締役

■取引店／親和銀行 早岐支店

志村 宏一氏

現在では、各種プラント等の制御装置をはじめ、造船所向けの船用、陸用の電気制御装置や各種操作盤、船舶の艀装品、産業機械等を幅広くオーダーメイドで製造しています。

また、83年(昭和58年)には、各種鋼材や製缶の防錆^{ぼうさつ}を行うことを主業とした有限会社日興防錆鋼業(現在は株式会社へ改組)を設立。グループ全体で、お客様の多様なニーズにお応えしております。



◀左から松本支店長、志村社長、鬼木頭取

**地域に貢献出来る
企業であり続けたい**

当社には大きく分けて、電気部門と製缶・鉄工部門の2つの部門があります。業務の中心である電気部門では、受配電盤や分電盤等の設計製造、自動制御装置等のシステム設計製造を行っております。また、製缶・鉄工部門では、船舶のタンク等、アルミやステンレス、薄板鋼材の各種板金加工品製造の技術力に強みを持っています。

当社の大きな特長として、製品の設計、製缶から塗装、組立、検査までの一連の工程が自社工場内で一貫して行えることや、電気や空調、製缶等、多くの分野にも対応出来ることが挙げられます。これは、これまで蓄積してきた技術力や経験、そして充実させてきた設備によるもので、各方面からの高い信頼にも繋がっています。現在では官公庁をはじめ、株式会社大島造船所様、株式会社名村造船所様、株式会社九電工様、西日本プラント工業株式会社様等、多くのお客様とお取引頂いています。

最近では、橋梁きょうりょうの一部も納入させて頂いた他、東日本大震災後に増加した地質調査機の製造依頼にも対応しております。お客様に優





れた技術と高い品質をご提供すること、地域に貢献出来る企業であり続けたいと思っています。

また、関連会社の日興防錆鋼業は、表面処理技術の強みを活かして各種鋼材の表面に防錆処理を行っています。月間処理能力5,000tの自動ショットブラスト（鋼材の

防錆処理の一工程として、その表面に鉄等の粒状の投射材を加圧してぶつける装置）も保有しており、大口ロットにも対応可能で他社との差別化を図っています。

全ては、お客様へご提供する製品の品質向上の為に

当社は、従業員の資格や免許の取得を推進しています。電気工事を行う為に必要な電気工事士、電気設備の保安監督が出来る電気主任技術者といった資格の他に、現場における従業員の身体的な被害防止の指揮・監督を行うことが可能な有機溶剤作業主任者等の資格を取得している者もいます。業務に必要な知識の習得を目指すことで、安全面の充実が図れる他、業務効率も上がることから納期短縮にも繋がり、お客様の満足度も向上するものと確信しています。

また、当社専務が佐世保市早岐地区の安全運転管理協議会の理事を務めていることもあって、従業員には、毎年自動車の安全運転管理者講習会への参加を勧める他、安全運転競技大会では表彰も受けております。安全運転への理解を深め意識を持続させることが重要であり、ひいては本業での各機器

類操作時の安全意識向上にも役立つと考えております。

これらの活動は「会社あつての従業員、従業員あつての会社」という会長の理念に基づくものです。会社は人なりを常として、理想の社員像を目指すべく当社では十訓を定めており、朝礼等での唱和を励行することで、意識の浸透を図っております。

全ては、お客様へご提供する製品の品質向上の為に、との想いから、当社はこれからも歩みを止めず研鑽を続けて参ります。

先を見据えながらも地道に努力を続ける

グローバル化の進展により、国境を越えての企業活動も身近なものになって参りましたが、現在当社でも海外進出に向けての検討を重ねております。

更に、業務の多様化に伴い、本社社屋が手狭になったこと

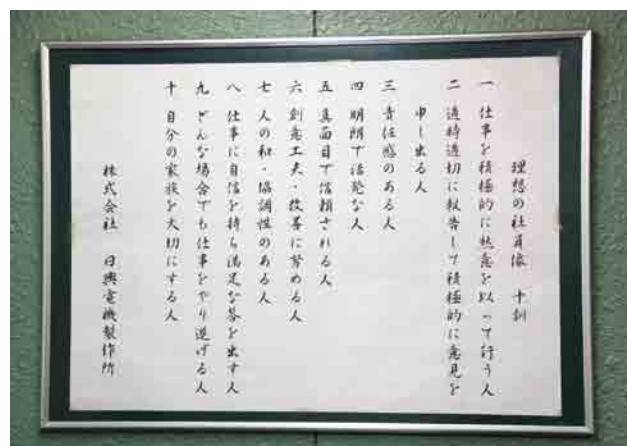
から、2012年前半には日興防錆鋼業の隣接地（長崎県東彼杵郡）に本社を移転する予定で、こちらも準備を進めているところです。私ども日興電機グループ（NDG）には、当社および日興防錆鋼業のほかに船舶関係の小規模な電装品を取り扱う有限会社上原機工（うわはら）があります。将来的にはNDG3社統合により業務の効率化やコストの節減等、シナジー効果を生み出



▲工場視察風景

株式会社日興電機製作所

- 設立: 1970年3月
- 所在地: 長崎県佐世保市
- 資本金: 1,000万円
- 従業員: 30名
- 事業内容: 電気機器、機械器具の製造、修理
- 事業拠点: 長崎県佐世保市(本社、工場)
長崎県東彼杵郡波佐見町、川棚町(関連会社)



▲理想の社員像 十訓



▲大型クレーンの前にて、左から志村社長、鬼木頭取

していきたいとも考えております。
これまでの経験と豊富な納入実績により、当社はお客様の様々なニーズやオーダーにお応え出来る体制を整えて参りました。今後もし引き続き、地に足をつけながら一歩

先を見据え、お客様との取引深耕を図りたいと思います。蓄積してきた知識と技術、信頼関係という財産をもとに、これからもお客様とともに大きく飛躍したいと願っております。

◎インタビューを終えて



親和銀行
取締役頭取 鬼木 和夫

御社の技術は、各種プラントの制御装置や産業機械の他、船舶の艀装品等、様々な分野の製品で活用されておられます。これは、設立以来一貫して、お客様の声に真摯に耳を傾けられながら、地道に技術や経験の蓄積に努めてこられたからだと考えます。

今後もその確かな技術力に裏打ちされたお客様からの信頼を基盤として、グループ3社の体制強化に努められ、御社が益々ご活躍されることを私も楽しみにしております。